

1. 教員および授業の概要

①教員名：林 秀司 (Hayashi Shushi)

②担当科目

博士前期課程：地域開発政策専門講義3（地域観光振興）、
地域開発政策専門講義I～IV

博士後期課程：北東アジア超域研究I・II、特別研究活動

③教員のプロフィール

- ・筑波大学大学院地球科学研究科地理学・水文学専攻単位取得満期退学。
- ・博士（理学）。
- ・人文地理学（農業・農村地理学）専攻。

④所属学会

- ・日本地理学会、人文地理学会、東北地理学会、東京地学協会、島根地理学会、日本観光研究学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・農業イノベーションの普及過程
- ・グリーン・ツーリズムによる農山漁村地域のまちづくり
- ・町並み保全による観光まちづくり

⑥研究指導方針

観光振興をはじめとする地域の課題に対して、おもに地理学的なアプローチで接近することを中心的な課題と方法とする。受講者の希望によっては、課題へのアプローチの仕方は多様であってよいが、基本的には、経験的・実証的な研究を指向する。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

- ・グリーン・ツーリズムによる農山漁村地域のまちづくりの展開
- ・歴史的町並みの保全と活用を通じた観光まちづくりの展開
- ・中山間地域における農村景観と生活形態の変容

2. 研究業績リスト

①著書

- (1) 宮川泰夫・山下潤編著『地域の構造と地域の計画』ミネルヴァ書房、2006年4月、「日本の地域・農村開発に関する政策」（共著、135-142頁）担当。
- (2) 島根県立大学地域政策研究グループ編『島根の未来を考える——島根地域政策の課題と展望』山陰中央新報社、2007年11月、「中山間地域の地域づくりと都市農山漁村交流」（107-113頁）担当。
- (3) 宇野重昭・吉塚徹編『地域政策研究の新地平——島根地域の将来展望のために』公人社、2007年12月、「都市農村交流を通じた中山間地域振興——韓国のグリーン・ツーリズムの取り組みを参考にして」（共著、237-252頁）および「島根県室谷の棚田における棚田保全の取り組み——市民・学生参加による「補完ネットワーク」の構築の試み」（253-265頁）担当。

②論文

- (1) 'Diffusion and Adoption of a New Strawberry Variety, Nyoho, in Tochigi Prefecture' Science Reports of the Institute of Geoscience, University of Tsukuba, Section A (筑波大学地球科学系) 第21巻、2000年1月、39～57頁。
- (2) 「日本における小ネギ生産の拡散——その予察的考察」島根地理学会誌（島根地理学会）第36号、2002年3月、1～10頁。
- (3) 「園芸農業地域における新品種の普及過程——福岡県八女郡広川町におけるイチゴ品種とよのかの普及」総合政策論叢（島根県立大学総合政策学会）第7号、2004年3月、149～168頁。

3. 学生に対するメッセージ

私自身の研究歴は、農業や農村地域の地理学的研究からスタートしています。修士論文と博士論文のテーマは農業イノベーションの普及過程で、新しいイチゴの品種がイチゴ生産地域や生産者の間にどのように普及していったのかを探求しました。また、大学院時代には、地域調査の実習を通して、農村の生活形態の変化や園芸農業地域の形成についての研究を行いました。本学に赴任してからは、観光、まちづくりにも研究領域を広めてきました。しかしながら、研究という点では、まだ深まっていないと感じています。観光、グリーン・ツーリズム、まちづくり、景観などの課題に、学生の皆さんとともに取り組んでいきたいと思っています。